

私たちはなぜ「建国記念の日」を承認しないのか

■私には「建国記念の日」を承認することができません。それは、現在の「建国記念の日」は戦前の「紀元節」がそのまま復活したものだと考えているからです。この危険な思想を含んだ「建国記念の日」を放置しておくわけにはいきません。戦前の天皇制下における祝日「紀元節」は、天皇制国家成立の記念日でした。そして侵略戦争に利用され、多くの犠牲者を出しました。その「紀元節」が敗戦後の新憲法下で廃止されたのは理の当然です。

■ところが、1951年に吉田首相が「独立後は紀元節を復活したい」と発言して以来、自由党（保守合同後は自民党）は「国民の祝日」に2月11日の「建国記念の日」を追加するという「紀元節法案」を毎年のごとく国会に上提しました。しかしながら、「紀元節法案」は国会内外で激しい反対にあい、上提の都度廃案になりました。そこで自民党は戦術を変え、祝休日三倍増という突飛的な計画をつくり、「建国記念の日」だけでなく、「お盆の日」「体育の日」の祝日化と置きあわせの法案を出して焦点をほかそうとしましたが、やはり廃案になりました。その後、佐藤内閣は置きあわせの祝日を「敬老の日」に変えて、政府立法として66年の通常国会に提出し、首相自ら陣頭指揮に立つという異常な事態の中で、法案の制定を強行しました。

■政府はなぜ「紀元節」復活にかくも固執したのでしょうか。もちろん政府に反動的な傾向があったことは言うまでもありません。しかしこの時点では特に、68年に予定された「明治百年祭」成功のための不可欠の要素として「紀元節」復活が必要だったのです。当時国民の「紀元節」に対する親近感が高まる一方で、世論調査によると、「紀元節」復活賛成は54年には74.2%だったのが65年には54.3%、66年には47.4%にまで激減しています。こういった状況下では、「紀元節」復活は急を要したのです。

■ところでその「明治百年祭」とは単なる祝賀行事ではなく、

一大思想動員でした。政府は「明治百年を契機として、めざましい近代国家の源となった明治の国民的エネルギーを再確認」あるのだと述べていますし、自民党も「明治百年を契機として」「占領史観からの脱却をはかり、思想的混乱を一掃」あるとしています。その政府の意図する新たな歴史像は、68年の小学校学習指導要領に明示されています。そこでは、明治維新以来の一世紀間をひと続きの時代として把握し、大日本帝国と日本国の区別すらつけず、侵略戦争の反省は全くなされないままに日本の近代化を謳歌しています。そのためにいくつもの歴史の偽造・歪曲を行なっていますが、これこそ政府の「明治百年史観」でした。

■以来、靖国神社問題・「君が代」国歌化・元号法制化など、相次いで天皇を政治的に利用して過去の侵略戦争肯定化のための思想動員がなされ、日本の大国主義が鼓吹されています。最近の教科書問題や教育臨調の問題もその延長線上にありまが、最近殊に顕著なのは教育を通じて思想統制を強化しようという動きが強まっていることです。

■そこで今年もまた2月10日昼休みに学習集会をもちます。特に政府・財界による思想統制の動きについて学習を深めたいと考えています。そのため下記2報告を予定しています。多数の皆さんの御参加を呼びかけます。

《文学部国史学大学院会》

「平安建都1200年構想の現状」

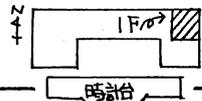
京都財界の主導下に、天皇を利用してひともうけしようという建都1200年構想があります。その構想の危険性を浮彫りにするため、過去に天皇利用に名を借りて何が行なわれてきたかを報告します。

《教育学部大学院会》

詳細は未定ですが、現在各地で行われている管理教育の実態を紹介し、教育臨調の目ざす方向性を分析検討して報告します。

第18回「建国記念の日」不承認京大集会

2月10日(金)昼12~1じ 於、法経5番教室



同集会実行委員会 (職組・母連・京院協・法院会・文院協・C自など)